

藤沢市による「気候非常事態宣言」についての声明

市民のみなさん

今日、3月19日は世界気候アクションの日です。私たちはすでに気候危機の中にいます。猛暑や豪雨など気候危機の影響が深刻化している今、問題の緊急性を踏まえた迅速な対応が求められています。

私たちの未来を守るために残された時間はあと4年といわれています。

このような中で、2月15日に、藤沢市長は「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」との「気候非常事態宣言」を発出しました。その第3項では「気候変動の危機的状況を市民、事業者、行政などあらゆる主体が広く情報共有し、協働して気候変動対策等に取り組みます」と表明しました。→ https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kankyous/kankyoukeihatsu/climate_emergency_declaration.html

私たちはこの宣言を歓迎し、市民と共に広く情報を共有することを願って声明を発表します。

これまで、藤沢市は「藤沢市地球温暖化対策実行計画」を策定し2022年度までに達成は困難かもしれませんが1990年比温室効果ガスの40%削減という意欲的な目標を掲げ、世界をリードしてきました。

「2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロをめざす」この宣言を達成するためには、中期目標である2030年までの取組が重要です。改訂されるであろう「藤沢市環境基本計画」及び「藤沢市温暖化対策実行計画」では、温室効果ガスの削減目標を明確にし、再生可能エネルギーを大幅に増やすことが求められます。このことを通して、すでに産業革命以降上昇した1°Cを含め気温上昇をパリ協定に定められている1.5°C未満に抑えるために2030年までに世界全体で45%の排出削減（2010年比）が必要との国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の呼びかけに答えていこうではありませんか。

IPCCの特別報告による1.5°Cに達するまでもう残された時間はありません。地球温暖化・気候危機はもはや後戻りできない段階となり危機的状況を止められる最後のチャンスです。

どんどん激しくなる異常気象や増える自然災害に危機感を覚えていますか？地球の将来を想像して、不安に感じないでしょうか？私たちがいま普通に暮らしているこの瞬間も、地球の気温上昇はジリジリと加速しています。そしてこれまで長い間、科学者たちが警告してきた、人間や他の生き物たちが今まで通りに暮らせない未来がすぐそこまで迫っているのです。

コロナ禍の中にあっても将来世代を裏切らない政策を策定するために、この「気候非常事態宣言」を形だけのものに留めず、宣言通りに市民、事業者、行政などが一丸となって大きなムーブメントを起こしていくことをすべてのステークホルダー（利害関係者）に呼びかけます。

以上

2021年3月19日

気候危機アクション藤沢

HP→savetheplanet-fujisawa.org

「私たちの未来を守るために残された時間はあと4年」キャンペーン署名：こちら→<http://ato4nen.com/>